

松尾スズキ作品、パリで初の海外公演 『マシーン日記』

愛がベルトコンベアを動かし、憎しみがスイッチを入れる。
松尾スズキが描く、恋愛カタストロフィの決定版。

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、4月25日～27日、パリ日本文化会館にて松尾スズキ作品として初の海外公演となる『マシーン日記』を、フランス語字幕つきで上演します。『マシーン日記』は96年上演と同時に評判となり、翌年に再演された松尾の代表作のひとつ。今までは片桐はいりが演じてきましたが今回は鈴木杏らにキャストを一新。12年ぶりの上演となります。なお、取材を希望される場合には、個別に対応させていただきます。



©Nobuhiko Hikiji

- 公演タイトル： マシーン日記
- 作・演出： 松尾スズキ
- キャスト： 鈴木杏、少路勇介、オクイシュージ、峯村リエ
- 公演日程： 2013年4月25日 20時 ※終演後関係者レセプション
4月26日 20時 ※松尾氏のアフタートーク
4月27日 17時
全公演 松尾氏本人によるプレ解説付き

- 会場：パリ日本文化会館
- チケット料金：20ユーロ（一般）／16ユーロ（割引）／12ユーロ（会員）
- お問合せ：パリ日本文化会館 01-4437-9595 www.mcjp.fr/francais
- 主催：国際交流基金（パリ日本文化会館） ●企画制作：東京芸術劇場

あらすじ：登場人物は4人。小さな町工場を営む兄アキトシ、ある理由から兄によって監禁されている弟ミチオ、兄の妻サチコ、彼女の元・担任で工場にパートとしてやってきた女ケイコ。社会から弾き落とされた、あるいは自ら背を向けた彼らの発熱する愛憎は、やがて町全体へと広がっていく。

作・演出：松尾スズキ(まつおすずき)：大人計画主宰。作家・演出家・俳優。1988年に「大人計画」を旗揚げ。個性的なメンバーが揃う人気劇団に育て上げるなか『愛の罰』『ヘブンズサイン』『ふくすけ』『母を逃がす』『キレイ～神様と待ち合わせした女～』『ウェルカム・ニッポン』『生きちゃってどうすんだ』など話題作を次々と生み出す。97年には『ファンキー！～宇宙は見える所までしかない～』で第41回岸田國土戯曲賞を受賞。その活動は演劇界だけにとどまらず、テレビドラマ、映画への出演や、小説、エッセイ、コラム執筆など、活躍は多岐にわたり、初の長編映画監督作『恋の門』が、2004年、ヴェネツィア国際映画祭に正式出品される。2008年『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』の脚本で、第31回日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞。第一線のクリエイターとして、各界から注目を浴びている。



お問い合わせ：国際交流基金 海外事業課 片山 電話：03-5369-6058
パリ日本文化会館 小林 電話：+33-1-4437-9568 mail: y.kobayashi@mcjp.asso.fr
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1